

むりょうじゅ



【発行】雲夢山寿命寺 〒520-0101 滋賀県大津市雄琴 3-19-36 TEL/FAX 077-572-5125 <http://jumyouji.net/>

親鸞聖人 報恩講 10/29(土) 14:00、19:00 10/30(日) 7:00、10:00、13:30



今年も報恩講の季節が巡ってきました。報恩講とは聖人のご恩に感謝する中で、改めて真実のみ教を聞き開き、共にお念仏を慶ぶ法要で、門徒にとって一年で最も大切な行事です。しっかりとお勤めいたしましょう。

今年のご講師は奈良・吉野の和氣秀剛先生です。下記プロフィールの通り若い先生ですが、しっかりと研鑽を積み、布教使として各地でご活躍です。なんと先日まではブラジルで布教をされてきたとのこと。

そんな和氣先生にこの度は「御絵伝」を題材にしたお話を頂きます。御絵伝とは親鸞聖人の御生涯を描いた絵巻物のことです。毎年報恩講で余間にかけていますので、ご覧になったことがあると思います。聖人の幼少から御往生までの様々なエピソードが全4幅に渡り描かれていて、順番に読み解いていけば聖人の一生と御心が頂ける仕組みになっています。

とは言え現代の私たちが見ても内容をすぐに理解するのは困難です。そこで今回は御絵伝のいくつかのシーンを取り出して、それを先生にご解説いただきます。経典の世界や高僧伝の絵を紐解きながら仏法を語るのには「絵解き」と言って古くからある説法の手法ですが、和氣先生はパソコンで絵を再編集し、それをプロジェクターで大写しにしながらお話していただきます。

実は去年、堅田本福寺さんの報恩講で先生の絵解き法話を拝聴(拝見)したのですが、編集によって絵の中で登場人物を動かしたり、雨を降らせたりして、平面的な日本画に立体的なユーモアを加え、最後まで見ている人を飽きさせませんでした。また単に絵の説明をするだけでなく、その時々親鸞聖人や周囲の人々の心情を細やかに読み取られ、優しく語りきかせてくださいましたので、遠い昔のお話であるのに、あたかも自分もその絵の中にいるような、親鸞聖人が間近におられるような、そんな感覚を持ちながら伺うことができました。

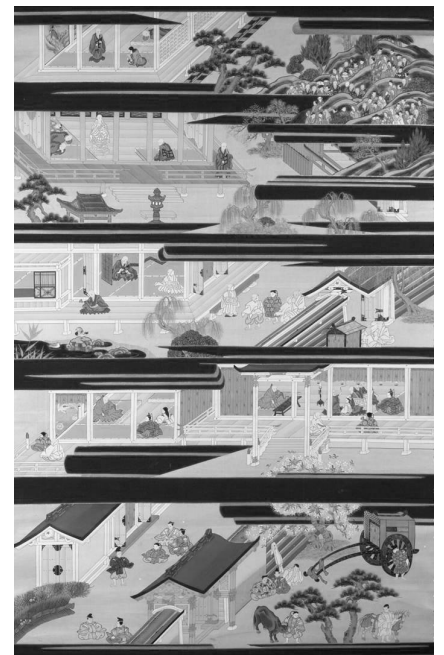
兎にも角にもお一人でも多くの方にお聞きいただきたいご法話です。是非ともご家族ご近所お誘い合わせの上、挙って御参拝くださいませ。



和氣秀剛(わけしゅうごう)師 1978年、カナダ国マニトバ州ウィニペグ市生れ。1984年帰国。龍谷大学を卒業し、現在奈良県五條市西吉野町の圓光寺の住職を務める。本願寺派布教使として各地で布教を行う他、特別法務員として得度・教師教習所期間中の指導員も務める。

ご家庭でも報恩講を!!

ハロウィンやクリスマスのパーティーはするのに、報恩講はしていない。そんなことはありませんか? 報恩講は門徒にとって1年で最も大切な行事。必ず各ご家庭の御内仏でも勤めましょう。不明なことは遠慮なく住職までご相談ください。



住職話

念仏のすゝめ

我が家では夕食後の食器洗いは私(住職)の担当です。夫婦と幼児二人の食器だけでですから大した量ではありません。それでも疲れている日は、シンクに積まれたお皿や茶碗を前にして「めんどくさいなあ。一晩くらい放っておいても大丈夫かな…」と思ってしまう夜もあります。

そんな時私は「なんまんだぶ、なんまんだぶ」とお念仏を称えます。すると心が少し変化するのを感じます。「めんどくさいなあ」が「しょうがないなあ」になるのです。それでしぶしぶではありますが、食器洗いを始めることができます。そして洗いながら尚も念仏を続けていると、今度は段々楽しくなってきます。最終的に食器がすっかりキレイになった時には、心もすっきり爽快です。いや、念仏つて素晴らしい。皆さんも気分が乗らない時には是非「なんまんだぶ」と称えてみてくださいね。

ように」とか、この娑婆世界での利益を求めてする祈りやまじいではないと度々諫められます。だからそれをお聞きになっている方からすれば、食器洗いのやる気を起こすためにお念仏するなんて本義から離れている。祈りやまじいではないにしても、阿弥陀さまへの感謝と関係がないではないかと思われるかもしれません。

でも私は食器を洗いながらのお念仏が阿弥陀さまと関係ないとは思っていないのです。「アミダ」とはインドの言葉で「無限の命と光」という意味です。命は時間、光は空間を表します。つまり阿弥陀さまは私がいつでもそばにいてくださる仏さまということ。ならば、そのことにお礼を申すのに時と場所を選んでは間にも合いません。だから食器を洗いながらのお念仏も、阿弥陀さまへの感謝のつもりで申し上げるのです。

ではなぜそれが食器洗いのモチベーションに繋がるのか。それには二つの理由があります。まず一つ目。阿弥陀さまは私を今そのままの姿で救うと仰る仏さまです。本堂やお仏壇の前で神妙な顔でお念仏しなければ救わないということではありません。食器の山の前で怠け心を起こしている

私を、その怠け心ごと救い取ると仰せなのです。そんな風に言ってもらえると、とてもありがたく嬉しい反面、自分の怠け心がなんとも情けなく恥ずかしく思えてきます。それでいいいそと食器を洗い始めるのです。

二つ目。お念仏は阿弥陀さまから私に直接届けられたものではありません。およそ二千五百年前、インドでお釈迦さまがこのお言葉を紹介されて以降、そこから無数のご縁(それは人であり、駱駝であり、馬であり、風であり、川であり、海であり…)が繋がって、今、台所のシンクの前に佇む私に届けられたものなのです。お念仏を称えながらそのことに思いを馳せれば、今私に課せられている食器洗いというミッションもまた、無数の縁が届けてくれたもの。ならば今この仕事をさせてもらえるのは世界中に私しかないと思える

に至り、誇りを持って食器を洗い始めることができるというわけです。

随分大げさな話になってしまいました。が、言いたいことはもつとお念仏を日常の中で称えましょう!ということ。きっかけはどうあれ、阿弥陀さまの名を称えればその救いに思いを馳せることになり。そしてそれは心に安らぎをもたらすはず。

そういうわけで、まずは食器洗いの前のお念仏、騙されたと思って今夜やってみてくださいね。なんまんだぶ、なんまんだぶ。



「くまモン募金」のご報告

5月の永代経法要の際に行った熊本地震への義援金募金の集計結果は、14,322円でした。これに寺院会計より15,000円、住職法務会計より678円を加え、合計30,000円を取りまとめ元である滋賀組事務所に届けさせて頂きました。皆さまのご協力に心より御礼申し上げます。



寄進のご報告(平成28年1月~9月)

【永代経懇志】

- 三上志保様 釋浩慈 金参拾萬円也
- 池見扶佐子様・瀬津美智子様 釋妙和 金壹拾萬円也

【特別寄進】

- 傍島公男様 本堂会議机

尊いお志、誠に有難うございます。